

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493400095
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜宮沢2
訪問調査日	平成20年3月6日
評価確定日	平成20年3月31日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 3月 12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第14934000095号
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホーム みんなの家 横浜宮沢2
所在地	神奈川県横浜市瀬谷区宮沢4-5-12 (電話) 045-300-3550

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年3月31日

## 【情報提供票より】(20年2月 6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	17	常勤 4人	非常勤 12人	常勤換算 5.6人

### (2) 建物概要

建物構造	( 木造 )造り
	2 階建ての ( 1)階 ~ ( 2 )階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 120,000 円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 ( 2月 6日 現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	八木在宅クリニック、湘南泉病院、中川歯科診療所
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年4月1日にオープンした、数多くの介護施設を擁する株式会社ウイズネットが運営するグループホームです。このグループホームの特徴は、道路を挟んで和泉川遊水地公園があり、散歩道が整備され、散歩に出やすい環境にあることです。公園のゲートボール場の利用者にトイレを貸したり、散歩途中の方にベンチで休んでもらったりしています。散歩に出るときには、出会った人に挨拶をするなど地域の人々とのかかわりを大切にしています。また、医療体制が整えられており、月2回の医師、歯科医師の往診、看護師の訪問があります。家族のような温もりを大切に、職員が家族のように生活を共にすることを考えて利用者として接しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>平成19年4月に開設されたホームで今回が初めての評価です。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>スタッフミーティングを行い、全職員に評価の説明を行い、すべての項目を渡し、各自記入してもらい10日間ぐらいかけて回収しました。その結果を管理者がまとめて仕上げました。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>11月に第1回の瀬谷区宮沢地区合同運営推進会議が下瀬谷地域ケアプラザで開催されました。第2回が近隣の同法人の3つのグループホーム合同で連合町内会長、民生委員、下瀬谷地域ケアプラザ所長と職員、利用者、家族等が参加して1月に開催されました。そこで「病院のように手を消毒するものをおいてほしい」と家族の方から要望があり、消毒液を玄関に備え付けました。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ご意見・提案箱が玄関に設置されています。このご意見・提案箱は、法人本部の方で管理して、家族が意見等を出しやすいようにしています。また、家族が訪問した際には意見や要望があるかを絶えず声掛けをしています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩の際には、出会う人たちに挨拶をし、犬を連れて方には犬に触らせてもらったりしています。和泉川遊水地公園のゲートボール場の利用者にトイレを貸したり、散歩途中の方にベンチで休んでもらったりしています。宮沢町内会に加入し、夏祭りや運動会に参加しています。9月にグループホームが開催した夏祭りには、地域の方にもチラシを配り、参加してもらいました。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、職員全員で話し合っ決めてもので、その理念の中に心のつながりを大切にすることが掲げられ、地域の方との交流を大事にしている。町内会に加入し、町内会のお祭り、運動会に参加し、グループホームの夏祭りには、近隣のチラシを配り、参加してもらっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、開設前に職員全員で話し合っ決めてものである。日々の生活の中で、基本的な考え方をスタッフミーティングや朝の申し送り・ミニカンファレンス時に管理者が職員に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域のお祭り・運動会・神社の礼大祭に参加している。9月にホームの夏祭りを開催した際には、近隣にチラシを配り、参加してもらった。ホーム前の和泉川遊水地公園の利用者にトイレを貸したり、散歩中の方にベンチで休んでもらったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフミーティングで、全職員に評価の説明を行い、すべての項目を渡し、各自記入出来るところを書いてもらい10日間ぐらいかけて回収した。その結果を管理者一人でもまとめ仕上げた。その中で利用者の方への対応について話し合い改善した事例がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第2回が近隣の同法人の3つのグループホーム合同で連合町内会長、民生委員、下瀬谷地域ケアプラザ所長と職員、利用者、家族等が参加して1月に開催された。そこで「病院のように手を消毒するためのものを玄関においてほしい」と家族の方から要望があり、消毒液を備え付けた事例がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給の利用者がいることから、担当ケースワーカーと連携を図っている。旭・瀬谷ブロック横浜高齢者グループホーム連絡会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の方の生活ぶりや健康状態、金銭管理についての書面を「一言通信」として月に1度家族の方に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に反映された事例は、運営推進会議で出された提案である。また、毎月発送している「一言通信」、ホーム玄関に設置されているご意見箱等により家族が意見、提案を出しやすい取り組みが行われている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が高く、職員の異動に関する利用者の不安を少なくしている。近隣から職員を採用するなどの工夫があり、顔なじみの職員によるケアを心がけている。新入の職員は、以前からの職員が紹介した後、自己紹介し不安や混乱がないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、法人が行っているヘルパー2級の研修を法人本部で行い、現在4名の職員が受講している。管理者は、3月に横浜市健康福祉局主催の横浜市地域密着型サービス事業者等集団指導講習会に参加している。		職員に対しての研修告知や記録・研修報告の作成等、今後は職員に対する研修システムの構築が期待されます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームが周辺に他に2ヶ所あり、連絡を取り合ったり、交流をしている。同法人の神奈川エリア22ヶ所とも会合をもっている。旭・瀬谷ブロック横浜高齢者グループホーム連絡会に参加し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者の状況にもよるが可能であればホーム見学の際、既利用者の輪に加わってお茶を飲んだり会話をする時間を設けてホームの雰囲気を感じてもらっている。職員も居室担当制をとっており入居の際の不安や混乱が最小限になるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>理念でもある「家庭のようなぬくもり」を大切にした関係づくりを目指している。ホーム裏庭に生えていた野菜を佃煮にしてくれた利用者があり、料理の手順や味つけ等利用者から学ぶ場面がある。お互いに支えあう関係が築かれている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションをとることがむずかしい利用者に対しては、小さな表情や動作の変化に、より注意深い観察を行い利用者の思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族から意見を聞いている。日々の申し送りや連絡ノートを活用し、カンファレンスを行い介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度の見直しの他に、入院等状況の変化が生じた場合は随時見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算、居宅療養管理指導を受けており、関係機関との協力体制を作っている。利用者、家族の状況によりかかりつけ医への通院の付き添いにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科は月2回、歯科は月4回)の往診等連携は良好に保たれている。入居前からのかかりつけ医の受診も柔軟に対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人には「重度化した場合の対応に係る指針」が用意されている。重度化した場合はかかりつけ医、家族、事業所で話し合っていくという看取りも視野に入れた体制づくりが整えられているが現在まで事例はない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応については十分配慮するよう会議や日々の申し送り時を利用して周知している。個人情報に関する記録等に関しては鍵のかかるロッカーに保管、管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問時、入浴される方、リビングでテレビを観られる方、散歩に行かれる方等利用者が毎日思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合った役割ができています。テーブル拭き、配膳、下膳、食器拭き等行われている。職員も同じテーブルを囲み会話を楽しみながらさりげない支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否の方が多いため対応をいろいろ検討している。気持ちよく入浴できるようその方のタイミングや馴染みの職員の声かけ、同性介助の配慮等の工夫し、一人ひとりに合わせた支援を心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、手芸、一般的な家事等役割や楽しみごとに対する取り組みがある。現在囲碁好きな方のために相手をしてくれるボランティアをお願いすることを検討している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前が遊水地公園になっており散歩に行きやすい環境にある。利用者は思い思いにホーム玄関前のあるベンチで談笑したり、散歩に出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	暗証番号による玄関ドアの開閉を行っているが、防犯上及び利用者の安全確保のためであり利用者の生活空間を妨げるような施錠は行っていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下に消火訓練、直報専用電話を使っでの通報訓練を行った。事業所のみでの避難訓練も行っている。近隣の方へも災害時の協力依頼の話をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材配達業者が栄養バランスやカロリー計算された献立を作成している。それを元に一人ひとりの状態に合わせ食事量を増減したりきざみ食にしたりと対応している。水分摂取も1000～1200ccを目安に少なめな方には声かけをしたり好きな飲み物を用意したりと配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問時にリビングに立派な雛人形が飾られていた。玄関ホールやリビングに観葉植物が置かれ和やかな雰囲気を作っている。窓も大きくて明るく、開放感がある。2階入り口ホールもさりげなく利用者制作の作品が飾られたりソファが置かれ居心地よく過ごせるような空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつ、仏壇、家族の写真等が持ち込まれ入居前の自室の雰囲気がそのまま感じられるような居室作りがされている。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家横浜宮沢2
(ユニット名)	1 階
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区宮沢4-5-12
記入者名 (管理者)	木村 昇
記入日	平成 20 年 2 月 6 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『家庭のような温もりと、入居者、家族、スタッフとが一つの輪になり、心のつながりを大切にします。』の理念のもと、地域行事に参加して地域との関わりを密にしています。		今後も積極的に地域に溶け込む努力を続けていきます。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全体で話し合いで決めたものであり、管理者は常に理念を念頭に置き、日々の介護にあたる上で必要な、基本的な考え方をスタッフ会議、ケアカンファレンス会議にて職員に周知徹底を図っております。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族、自治会、区役所、地域包括センターの方々に参加して頂き、運営推進会議を開催してホーム理念の説明をしている。ご家族様、ご入居様には入居契約時にホーム理念を詳しく説明しております。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩などで近隣の方々に会った際には積極的に挨拶を交わしております。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入、地域での行事の参加、ホーム前の和泉川遊水地公園の利用者にトイレを開放してご利用頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>権利擁護事業の認識について理解されていない職員もおりますので、研修など実施していきたいと思っております。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書を読み合わせをして確認、説明をしている。その都度質問を受けて理解をして頂いております。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は、出来る限りご利用様と個別にコミュニケーションをとり、そこで得た意見を尊重しております。また、苦情相談窓口を玄関先に掲示しております。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度、ご利用様の生活ぶりや、健康状態、金銭管理について書面にて報告して、確認、了解して頂いております。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見、提案箱を設置しご意見、不満、苦情をホーム運営に反映させている。契約書にも苦情相談窓口の連絡先を記載して、入居時に説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者はご意見、提案箱を設置してホーム運営に反映させている。管理者は、個人面談やスタッフ会議、カンファレンス会議で意見を聞いている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用様の体調変化などに応じて、必要な場合は緊急にシフト変更をしてご利用様の安全確保をしております。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は、ホームから近い方が多く離職者数は非常に少ない。職員の退職による、不安や混乱は今のところ見られません。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内のスキルアップ研修を随時開催、新入職スタッフにおいてはホーム長による個別指導を実施している。無資格者のスタッフには積極的にヘルパー2級研修を受講して頂いている。現在、4名のスタッフがヘルパー2級の資格取得のため受講中です。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホーム周辺には比較的近い距離に3ヶ所のみん家のグループホームがあり連絡を取り合ったり、交流をしています。		今後は、他法人のグループホームとも交流をしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談や親睦会の開催にてストレスの軽減に努めております。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の勤務状態、姿勢など、自己啓発として年2回考課を行い昇格、昇給に反映させている。職員の意見や提案を直接運営者に届く意見箱がある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	例えば、利用につながらなくても、利用者やご家族様などの相談を受け入れ、見学などを行い自分たちができる範囲でのアドバイスを行っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の相談、要望などをきちんと傾聴して日程調整している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者ご家族の心身の状況を客観的に把握して、ご利用者ご家族にとって最善の生活が出来るよう支援しております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム見学の際、既利用者の輪に加わってお茶を飲んだり、一緒に懇談してする機会を作ってグループホームの雰囲気に馴染めるよう配慮しています。ご利用者様によっては無理な声かけせず、見守りをして様子をうかがうようにしている。		理念でもある、家庭のような温もりの雰囲気づくりをしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務において指導していることは、介護しているのではなく、一緒に共に生活をしているということです。おとしよりは経験も豊富で、料理の仕方、味付け、季節の行事などご利用者様から職員も学びながら生活の共有をしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の訴え、要望などを聞き、面会時や電話、一言通信などで近況報告をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の本人、家族の関係を理解して、グループホームに入居することによって、いままでと異なる良い関係になれるよう配慮しております。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や把握できている利用者や馴染みの人が近隣にいる場合には、関係が持続できるよう、手紙、電話など連絡がつけられるよう支援しております。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者9名が家族と言う認識のもと、職員の声かけなどで孤独感を抱かずに、お互いさまという環境作りに努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者やご家族の意向に沿って行っている。(ケアマネの紹介、他施設の紹介など)		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様、ご家族様との面談により希望を聞いたり、日頃の言動や訴えなどをカンファレンスしてケアに生かしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問面談にて、ご本人の生活歴、趣味活動などを聞き入居後のご本人の生活に反映させている。私物についても馴染みの物はなるべく持参して頂くようお願いしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居直後や、状態に変化があった時には記録や申し送りを密にしてスタッフ間の認識を統一するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りや連絡ノートを活用し、ケアカンファレンス会議にて検討してケア計画に生かしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施できないものではなく、実際に実施可能なケアプラン作成を心がけております。ご本人の状況に変化がなければ3ヶ月を目安に随時見直しをしております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	おもに日々の生活記録連絡ノートの内容に加えて申し送りなどでスタッフと意見交換して情報の共有に努めケアプランの実践、見直しを図っております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族、本人の希望によっては、外出、外食などの支援をしている。また、食事、入浴、排泄など本人の体調や希望により対応している。また、居宅療養管理指導を取り入れてご利用者様の日時要の健康管理に留意しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議にてホームの活動内容を説明してご理解を頂いております。また、消防署、警察署にはホーム概要、人員、介護度別、車椅子利用者数などを査察の際お知らせをしております。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容、訪問マッサージの受け入れをしている。		今後はどのようなサービスが受け入れ可能なのが情報収集に努めます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進鍵を通してつながりが出来た段階である。		地域包括支援センターと協働していくという意識を高めて行きたいと考えております。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外に本人、家族の希望を入れて他の医療機関を受診している方もおります。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	常に医療関係者と連絡をとり、本人の状態に合わせて必要な関わりが出来るよう医療機関を選んでいる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回の訪問診療にて医師、看護婦により健康管理をしている。また、医療連携加算の体制による看護師の定期訪問もあり、疾病の早期発見など健康管理に留意しております。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の医師やソーシャルワーカーと連絡を密にして現状や帰ホームの際の健康管理を相談している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の指針を家族に送付している。相談窓口を設けている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	出来る限りホームの慣れた環境の中でご本人が安心して残された力を活かして生活することを大切に考え、ホームにおける医療体制の充実を図っております。また、ホーム内での医療行為の限界も冷静に考えていく必要もあると思います。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーの提供や特記事項を話し、当ホームでの生活状況などの情報提供をして転居先での生活不安の解消に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケアについては、プライバシーに十分配慮するよう各種会議、申し送りなどを利用して周知しています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来るだけ本人に合った声かけや話し方をして自然に引き出していきよう心がけている。自己決定を大事にします。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人、個人のペースを尊重した生活の確保に努めている。家庭の延長を基本に、ホームのスケジュールに合わせないようしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容にて対応しているが、理髪師と美容師がセットで来るので要望には答えられていると思います。他の美容室に行っている方もおります。愛着のあるバックや時計、宝飾品を持参される方もおります。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者様と一緒に会話をしながら食事をし、楽しい場の空間づくりにつとめている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在、ご利用者様には飲酒、喫煙者はありません。おやつについては、ご利用者様の要望を聞いて食べたいものを購入している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握をして、声かけ誘導をしたりして極力トイレでの排泄に努めております。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気持ち良く入浴出来るよう声かけのタイミングや雰囲気作りをしている。入浴時間にもなるべく希望に沿うようしております。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	冷暖房に気をつけて、その日の状態によってゆっくり休めるように支援している。日中のお昼ねの長さなどを考慮して一日を通してバランスの取れた睡眠の確保に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者様の生活歴、趣味活動を考慮しているが実施しているが、十分とは言えない		ご本人ご家族からの情報収集して今後のケアに活かして行きたいと思います。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で行っておりますが、数名は本人の希望により自己管理して頂いております。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調に応じてですが、幸いにも当ホームは、目の前が和泉川遊水地公園となっており、天気の良い日は毎日のように散歩に行っております。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と外出、外泊される方もおります。		希望を取り、日帰り旅行を検討している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、電話をかけたリ、手紙を書く支援をしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間や場所などを制限することなく、自由に訪問面会出来るよう支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『拘束する』事のデメリット理解し、スタッフ同士で話し合いをしている。介護方法の創意工夫している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全管理、防犯上の理由から施錠していることもありますが、入居者の生活空間を妨げるような施錠はしておりません。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、職員はさりげなく全体を見守りやすい位置にいて、ご利用者様の様子を把握できるよう心がけております。夜間は、巡回を小まめにして記録に残すようにしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活の場という視点から利用者の状況に応じて対応している刃物や薬については、施錠出来るところに保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さなことでも、事故報告書(ヒヤリハット含む)を書いて問題意識の共有を図っている。		

項 目		( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応方法を掲示して。事業所として応急対応訓練はしていませんが、個々の職員は消防署主催の救急、救命の講習に参加している。	
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	下瀬谷消防署の協力により初期消火、通報訓練を実施している。また、地域の非難場所を確認したり、職員の緊急連絡網を作成している。	
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時などにその都度ご家族様と話し合い個々の対応しています。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排泄表、職員間申し送りにて日常と違う異変を察知して疾病などの早期発見に努めている。	
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容はファイルしてあり間違いの無いよう薬袋に日付を記入している。薬の種類や用量が変わった時には申し送りノートに記載して観察している。	
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	トイレでの排泄を基本に置いて援助方法を検討している。また、水分を多めに摂ったり、運動(体操)したりして便秘の予防をしている。	
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがい、歯磨き、入れ歯清掃などを実施している。毎週1回訪問歯科にて歯の問題、口腔ケアを実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食べる量、水分など記録している。月1回の体重測定をして増減に応じて食事量を考えたり、水分摂取量の少ない方にはこまめに声かけしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後、の手洗い、うがいを励行している。感染症のマニュアルがあり、時期に応じて早めの対応している。トイレ、台所の物品や水周りの衛生に配慮している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾などは毎日ハイター消毒している。冷蔵庫内は定期的に整理、整頓して衛生管理に努めております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花の鉢を入居者様と植えるなど家庭的な玄関回りになるよう配慮しています。建物周囲の清掃、清潔、安全に留意しております。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事の写真などを飾り家庭的な雰囲気づくりをしている。外気温との差が極端に大きくならない様に空調を管理している。日差しについては、レースのカーテンにて調整しております。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で独りで過ごせる環境やご利用者様がのんびり、ゆったり過ごせるような環境づくりに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居時に使い慣れたもの、馴染みのある品、思い出の品な どを持ち込んで頂いて、入居前の自室の感覚を味わえるよう 依頼している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	各居室の換気は24時間している。温度調節については、ご 本人の体調を考慮してこまめに調整しております。トイレは常 に換気し、清掃についても1日2回の清掃を実施して衛生管 理をしております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	建物内はバリアフリーで、廊下、トイレ、浴室に手摺りを設置 しております。歩行空間には障害物がないようにして安全が 保てるよう配慮しております。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	自立支援に努め、混乱、失敗のないよう安心して暮らせるよう に工夫しています。迷っているときには、さりげなく声かけし ている。各居室に名札をつけたり、浴室、トイレに部屋名を掲 示している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関横にベンチを置いたり、庭に花を植えたりして、潤いの ある生活を支援している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入して下さい。）

平成19年4月1日開設以来、あっという間に10ヶ月が経過いたしました。最初は、試行錯誤を繰り返した時期もありましたが、最近になり、ご利用者様もホームの生活に慣れて、日々穏やかな生活が送れるようになりました。これからは、さらに地域との交流を深めて地域の様々な行事にも積極的に参加して行きたいと思っております。『その人らしさを大切に』、『地域との共生』、『ご利用者様を中心に据えたホーム運営』をモットーに、ご利用者様が安心して穏やかな生活が送れるよう支援して行きたいと思っております。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家横浜宮沢2
(ユニット名)	二階
所在地 (県・市町村名)	横浜市瀬谷区宮沢4-5-12
記入者名 (管理者)	木村 昇
記入日	平成 20 年 2 月 6 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『家庭のような温もりと、入居者、家族、スタッフとが一つの輪になり、心のつながりを大切にします。』の理念のもと、地域行事に参加して地域との関わりを密にしています。		今後も積極的に地域に溶け込む努力を続けていきます。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員全体で話し合いで決めたものであり、管理者は常に理念を念頭に置き、日々の介護にあたる上で必要な、基本的な考え方をスタッフ会議、ケアカンファレンス会議にて職員に周知徹底を図っております。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族、自治会、区役所、地域包括センターの方々に参加して頂き、運営推進会議を開催してホーム理念の説明をしている。ご家族様、ご入居様には入居契約時にホーム理念を詳しく説明しております。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩などで近隣の方々に会った際には積極的に挨拶を交わしております。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入、地域での行事の参加、ホーム前の和泉川遊水地公園の利用者にトイレを開放してご利用頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において当ホームが役に立てることは何か、それを実践していくにはどうしたら良いか提案しているところです。和泉川遊水地公園のご利用されている方へのトイレの開放は継続していきたいと思いを。		
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員には外部評価の説明会を実施して全員の方に自己評価を提出して頂いております。今回初めての外部評価なのでこの機会を得てなお一層の職員の資質の向上を図っていきます。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、2回開催しております。地域が持つ力や役割について理解が出来てホーム運営と地域との関わりについて有意義であったと感じております。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市区町村、地域包括センターなどの開催する各種研修に積極的に参加していきたい。また、生活保護ケースについては、担当ケースワーカーと連携を密にしていく。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日頃より、ご利用者様、ご家族様と連携を持っている。理解している職員もいるが、全職員が理解しているとは思えないので、学ぶ機会が必要と思われます。		権利擁護事業の認識について理解されていない職員もおりますので、研修など実施していきたいと思いを。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアについて、全職員が共通認識を持って取り組むよう指導している。ご利用者様を中心に置いた介護を目指しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書を読み合わせをして確認、説明をしている。その都度質問を受けて理解をして頂いております。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は、出来る限りご利用様と個別にコミュニケーションをとり、そこで得た意見を尊重しております。また、苦情相談窓口を玄関先に掲示しております。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一度、ご利用様の生活ぶりや、健康状態、金銭管理について書面にて報告して、確認、了解して頂いております。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見、提案箱を設置しご意見、不満、苦情をホーム運営に反映させている。契約書にも苦情相談窓口の連絡先を記載して、入居時に説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者はご意見、提案箱を設置してホーム運営に反映させている。管理者は、個人面談やスタッフ会議、カンファレンス会議で意見を聞いている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用様の体調変化などに応じて、必要な場合は緊急にシフト変更をしてご利用様の安全確保をしております。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は、ホームから近い方が多く離職者数は非常に少ない。職員の退職による、不安や混乱は今のところ見られません。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内のスキルアップ研修を随時開催、新入職スタッフにおいてはホーム長による個別指導を実施している。無資格者のスタッフには積極的にヘルパー2級研修を受講して頂いている。現在、4名のスタッフがヘルパー2級の資格取得のため受講中です。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホーム周辺には比較的近い距離に3ヶ所みんなの家のグループホームがあり連絡を取り合ったり、交流をしています。		今後は、他法人のグループホームとも交流をしていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人面談や親睦会の開催にてストレスの軽減に努めております。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の勤務状態、姿勢など、自己啓発として年2回考課を行い昇格、昇給に反映させている。職員の意見や提案を直接運営者に届く意見箱がある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	例えば、利用につながらなくても、利用者やご家族様などの相談を受け入れ、見学などを行い自分たちができる範囲でのアドバイスをを行っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の相談、要望などをきちんと傾聴して日程調整している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者ご家族の心身の状況を客観的に把握して、ご利用者ご家族にとって最善の生活が出来るよう支援しております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム見学の際、既利用者の輪に加わってお茶を飲んだり、一緒に懇談してする機会を作ってグループホームの雰囲気に馴染めるよう配慮しています。ご利用者様によっては無理な声かけせず、見守りをして様子をうかがうようにしている。		理念でもある、家庭のような温もりの雰囲気づくりをしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常業務において指導していることは、介護しているのではなく、一緒に共に生活をしているということです。おとしよりは経験も豊富で、料理の仕方、味付け、季節の行事などご利用者様から職員も学びながら生活の共有をしています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の訴え、要望などを聞き、面会時や電話、一言通信などで近況報告をしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の本人、家族の関係を理解して、グループホームに入居することによって、いままでと異なる良い関係になれるよう配慮しております。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や把握できている利用者や馴染みの人が近隣にいる場合には、関係が持続できるよう、手紙、電話など連絡がつけられるよう支援しております。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者9名が家族と言う認識のもと、職員の声かけなどで孤独感を抱かずに、お互いさまという環境作りに努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者やご家族の意向に沿って行っている。(ケアマネの紹介、他施設の紹介など)		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様、ご家族様との面談により希望を聞いたり、日頃の言動や訴えなどをカンファレンスしてケアに生かしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問面談にて、ご本人の生活歴、趣味活動などを聞き入居後のご本人の生活に反映させている。私物についても馴染みの物はなるべく持参して頂くようお願いしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居直後や、状態に変化があった時には記録や申し送りを密にしてスタッフ間の認識を統一するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	申し送りや連絡ノートを活用し、ケアカンファレンス会議にて検討してケア計画に生かしています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施できないものではなく、実際に実施可能なケアプラン作成を心がけております。ご本人の状況に変化がなければ3ヶ月を目安に随時見直しをしております。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	おもに日々の生活記録連絡ノートの内容に加えて申し送りなどでスタッフと意見交換して情報の共有に努めケアプランの実践、見直しを図っております。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族、本人の希望によっては、外出、外食などの支援をしている。また、食事、入浴、排泄など本人の体調や希望により対応している。また、居宅療養管理指導を取り入れてご利用者様の日時要の健康管理に留意しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議にてホームの活動内容を説明してご理解を頂いております。また、消防署、警察署にはホーム概要、人員、介護度別、車椅子利用者数などを査察の際お知らせをしております。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容、訪問マッサージの受け入れをしている。		今後はどのようなサービスが受け入れ可能なのが情報収集に努めます。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進鍵を通してつながりが出来た段階である。		地域包括支援センターと協働していくという意識を高めて行きたいと考えております。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外に本人、家族の希望を入れて他の医療機関を受診している方もおります。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>常に医療関係者と連絡をとり、本人の状態に合わせて必要な関わりが出来るよう医療機関を選んでいる。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>月2回の訪問診療にて医師、看護婦により健康管理をしている。また、医療連携加算の体制による看護師の定期訪問もあり、疾病の早期発見など健康管理に留意しております。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>病院の医師やソーシャルワーカーと連絡を密にして現状や帰ホームの際の健康管理を相談している。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した時の指針を家族に送付している。相談窓口を設けている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>出来る限りホームの慣れた環境の中でご本人が安心して残された力を活かして生活することを大切に考え、ホームにおける医療体制の充実を図っております。また、ホーム内での医療行為の限界も冷静に考えていく必要もあると思います。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>介護サマリーの提供や特記事項を話し、当ホームでの生活状況などの情報提供をして転居先での生活不安の解消に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員には、ご自身の父母だったら?また、自分だったらどう思うのか置き換えてみてと問いかけながら指導している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	出来るだけ本人に合った声かけや話し方をして自然に引き出していきよう心がけている。自己決定を大事にします。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	個人、個人のペースを尊重した生活の確保に努めている。家庭の延長を基本に、ホームのスケジュールに合わせないようしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	訪問理美容にて対応しているが、理髪師と美容師がセットで来るので要望には答えられていると思います。他の美容室に行っている方もおります。愛着のあるバックや時計、宝飾品を持参される方もおります。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	利用者の希望や能力、利用者同士の関係性などを考慮して実施している。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	利用者の希望や健康状態、他の利用者への影響などを考慮しながら実施している。おやつについては、ご利用者様の要望を聞いて食べたいものを購入している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個々の排泄パターンの把握をして、声かけ誘導をしたりして極力トイレでの排泄に努めております。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>気持ち良く入浴出来るよう声かけのタイミングや雰囲気作りをしている。入浴時間にもなるべく希望に沿うようしております。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>冷暖房に気をつけて、その日の状態によってゆっくり休めるように支援している。日中のお昼ねの長さなどを考慮して一日を通してバランスの取れた睡眠の確保に努めている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の介護度のアップに伴い、職員が支援できる事が限定されますが、その中でも出来る範囲で支援するように心がけている。</p>		<p>ご本人ご家族からの情報収集して今後のケアに活かして行きたいと思っております。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は事務所で行っておりますが、数名は本人の希望により自己管理して頂いております。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>体調に応じてですが、幸いにも当ホームは、目の前が和泉川遊水地公園となっており、天気の良い日は毎日のように散歩に行っております。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>利用者に重度化に伴い、体制を整えることが難しい状況である。</p>		<p>希望を取り、日帰り旅行を検討している。</p>

項目			(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば、電話をかけたり、手紙を書く支援をしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間や場所などを制限することなく、自由に訪問面会出来るよう支援しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『拘束する』事のデメリット理解し、スタッフ同士で話し合いをしている。介護方法の創意工夫している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全管理、防犯上の理由から施錠していることもありますが、入居者の生活空間を妨げるような施錠はしておりません。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、職員はさりげなく全体を見守りやすい位置にいて、ご利用者様の様子を把握できるよう心がけております。夜間は、巡回を小まめにして記録に残すようにしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活の場という視点から利用者の状況に応じて対応している 刃物や薬については、施錠出来るところに保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さなことでも、事故報告書(ヒヤリハット含む)を書いて問題意識の共有を図っている。		

項 目		( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		緊急対応方法を掲示して。事業所として応急対応訓練はしていませんが、個々の職員は消防署主催の救急、救命の講習に参加している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		下瀬谷消防署の協力により初期消火、通報訓練を実施している。また、地域の非難場所を確認したり、職員の緊急連絡網を作成している。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている		毎日のバイタルチェック、体重の増減、日常の心身の変化に気配りして往診医と相談しながら早めの対応をしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		毎日のバイタルチェック、排泄表、職員間申し送りにて日常と違う異変を察知して疾病などの早期発見に努めている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		薬の内容はファイルしてあり間違いの無いよう薬袋に日付を記入している。薬の種類や用量が変わった時には申し送りノートに記載して観察している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		トイレでの排泄を基本に置いて援助方法を検討している。また、水分を多めに摂ったり、運動(体操)したりして便秘の予防をしている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている		食後のうがい、歯磨き、入れ歯清掃などを実施している。毎週1回訪問歯科にて歯の問題、口腔ケアを実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた食べる量、水分など記録している。月1回の体重測定をして増減に応じて食事量を考えたり、水分摂取量の少ない方にはこまめに声かけしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後、の手洗い、うがいを励行している。感染症のマニュアルがあり、時期に応じて早めの対応している。トイレ、台所の物品や水周りの衛生に配慮している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾などは毎日ハイター消毒している。冷蔵庫内は定期的に整理、整頓して衛生管理に努めております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花の鉢を入居者様と植えるなど家庭的な玄関回りになるよう配慮しています。建物周囲の清掃、清潔、安全に留意しております。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事の写真などを飾り家庭的な雰囲気づくりをしている。外気温との差が極端に大きくならない様に空調を管理している。日差しについては、レースのカーテンにて調整しております。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で独りで過ごせる環境や適度の死角もあり、過ごしやすい環境づくりを行って、い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたもの、馴染みのある品、思い出の品などを持ち込んで頂いて、入居前の自室の感覚を味わえるよう依頼している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の換気は24時間している。温度調節については、ご本人の体調を考慮してこまめに調整しております。トイレは常に換気し、清掃についても1日2回の清掃を実施して衛生管理をしております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、廊下、トイレ、浴室に手摺りを設置しております。歩行空間には障害物がないようにして安全が保てるよう配慮しております。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活空間という意識を持ちながら、違和感のない目印や表示などの環境づくりに配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横にベンチを置いたり、庭に花を植えたりして、潤いのある生活を支援している。		



. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入して下さい。)

平成19年4月1日開設以来、あっという間に10ヶ月が経過いたしました。最初は、試行錯誤を繰り返していた時期もありましたが、最近になり、ご利用者様もホームの生活に慣れて、日々穏やかな生活が送れるようになりました。これからは、さらに地域との交流を深めて地域の様々な行事にも積極的に参加して行きたいと思っております。『その人らしさを大切に』、『地域との共生』、『ご利用者様を中心に据えたホーム運営』をモットーに、ご利用者様が安心して穏やかな生活が送れるよう支援して行きたいと思っております。